



ふじみ野市 デジタル戦略計画(2026-2031)

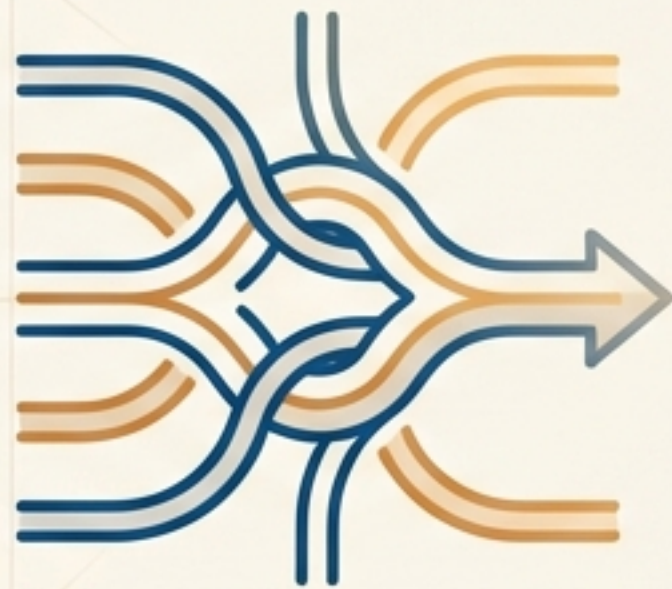
人がつながる 豊かで住み続けたいまちへ

計画の策定経緯と概要

この資料は生成AIを利用して作成しています

The Digital Blueprint

背景



社会の激しい変化（人口減少、コロナ禍の教訓、国の標準化要請）に対応し、これまでのIT計画とDX方針を統合。単なるIT導入から「根本的な変革」へ。

概要



4つの基本目標（市民サービス改革、持続可能な行政、しなやかな働き方、強固なインフラ）。

目指す姿



「誰一人取り残さない」人に優しいデジタル化で、利便性と持続可能性を両立したスマートなまちづくり。

外部環境の急激な変化

国のDX推進要請（システムの標準化・オンライン化）、AIやクラウド等テクノロジーの進化、コロナ禍で浮き彫りになったデジタル化の遅れ。

ふじみ野市の内部課題

人口減少・少子高齢化による行政リソースの限界、災害激甚化に伴う対応力強化の必要性、複雑化する市民ニーズ。

結論

従来の「デジタイゼーション（紙の電子化）」から、業務や社会そのものを変革する「DX（デジタルトランスフォーメーション）」への本格的な移行が不可欠。

軌跡1：情報化基本計画 (2008～2025年)

第1次～第3次計画。基礎的なオンライン手続、公共Wi-Fi、Fメール配信など「基盤整備とIT化」を推進。

軌跡2：DX推進方針 (2022年～)

デジタル技術を活用した「新たな価値創造」へのシフト。

統合・進化 (2026年～2031年)

2つの軌跡が合流。「ふじみ野市デジタル戦略計画」へ。ICTとDXを融合させた、未来への羅針盤。

市民向け



市民×技術

一部の手続きで残存するアナログ対応、オンライン完結できない不便さ。



市民×人

デジタルデバインド（高齢者や障がい者など、デジタルに不慣れな層への支援不足）。



市役所×技術

一部部署に残る古いレガシーシステム、データ連携の不足、クラウド移行の遅れ。



市役所×人

職員間のITスキルのばらつき、生成AI等の新技術に対する活用意識の差。

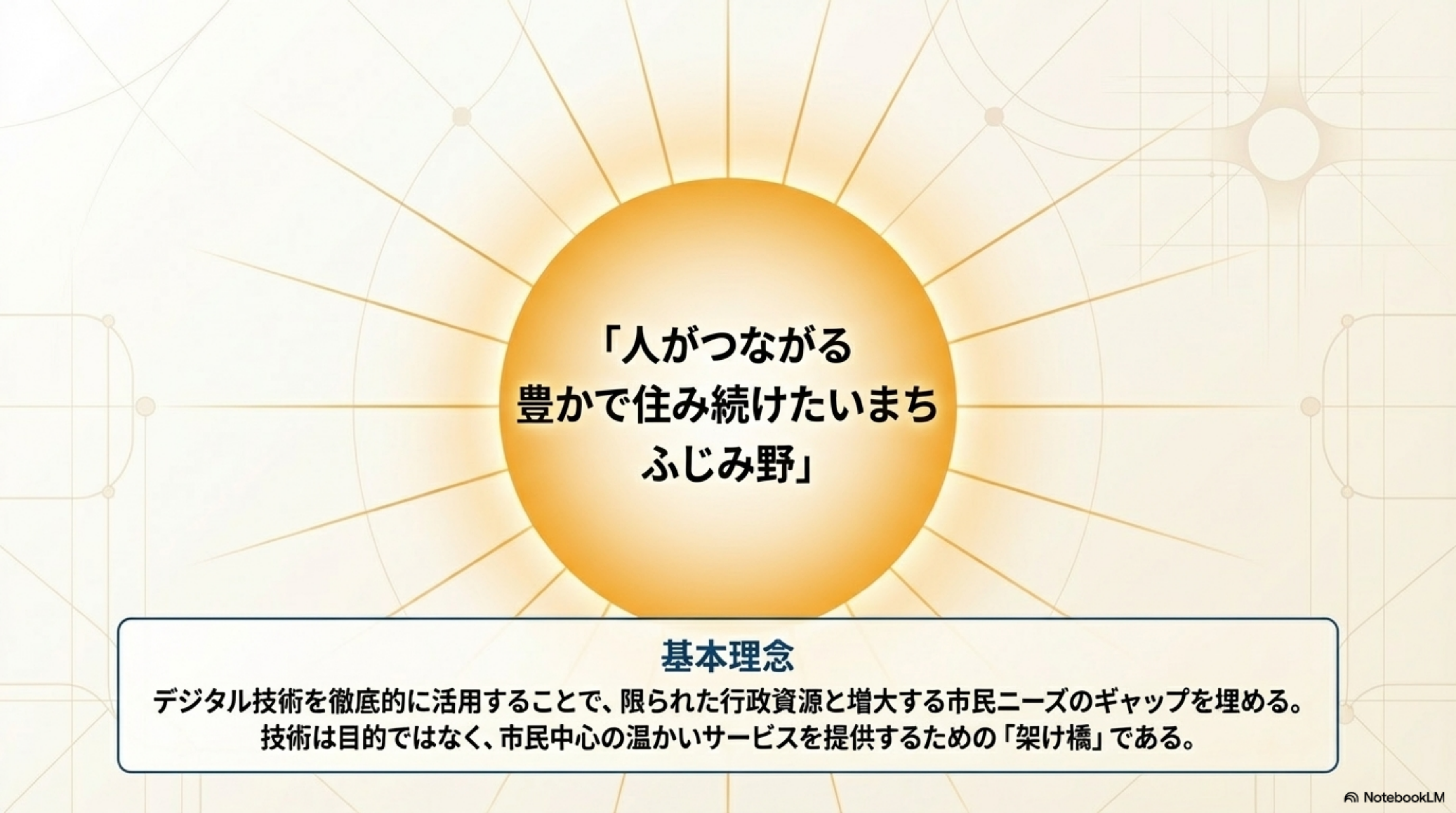
市役所内部

技術・システム

Noto Sans JP

人・ルール

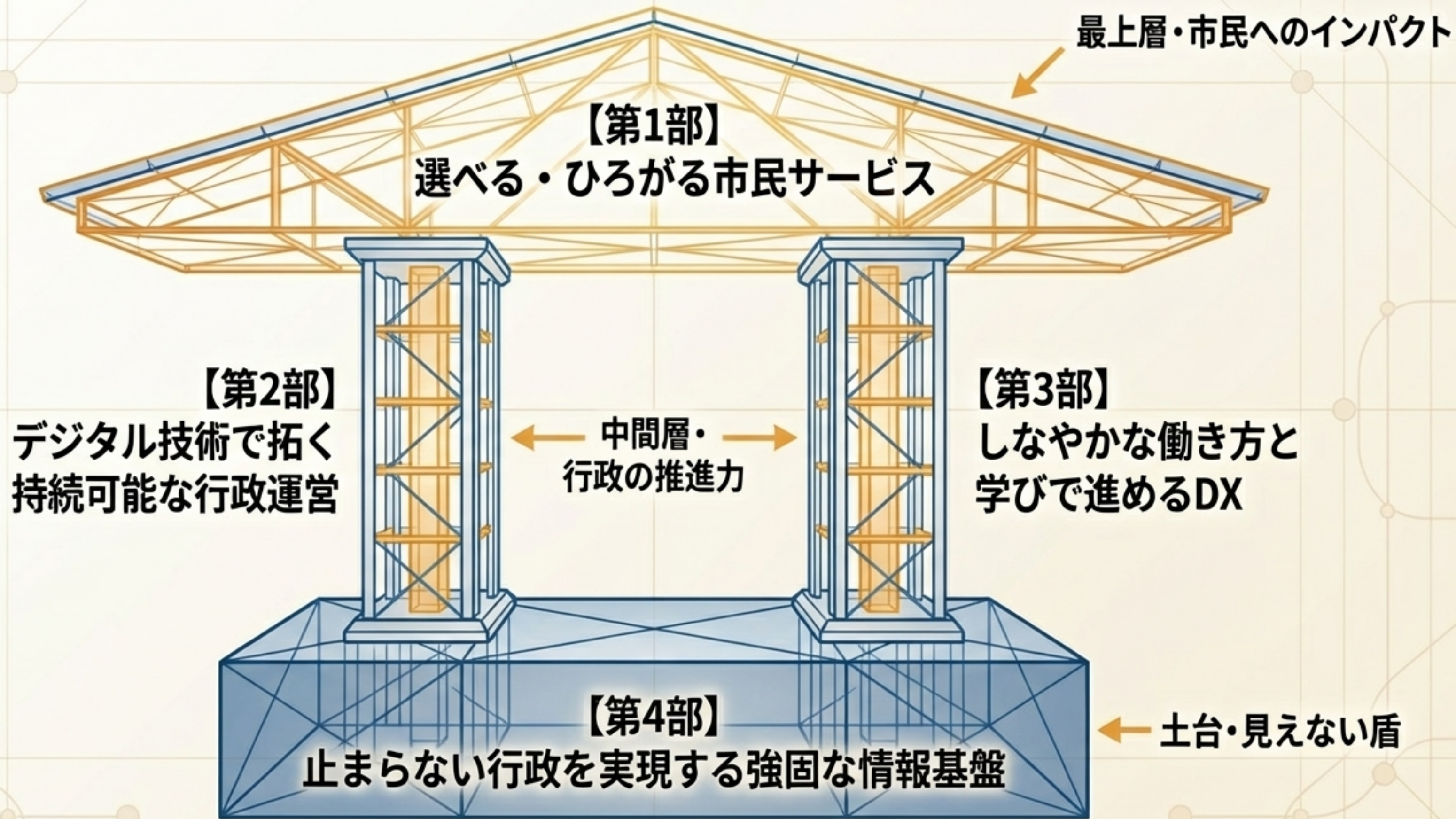
Noto Sans JP



**「人がつながる
豊かで住み続けたいまち
ふじみ野」**

基本理念

デジタル技術を徹底的に活用することで、限られた行政資源と増大する市民ニーズのギャップを埋める。
技術は目的ではなく、市民中心の温かいサービスを提供するための「架け橋」である。





フロントヤード改革

「おくやみワンストップ窓口」の設置など、ライフイベントに伴う複雑な手続きを一括支援。書かない窓口の推進。



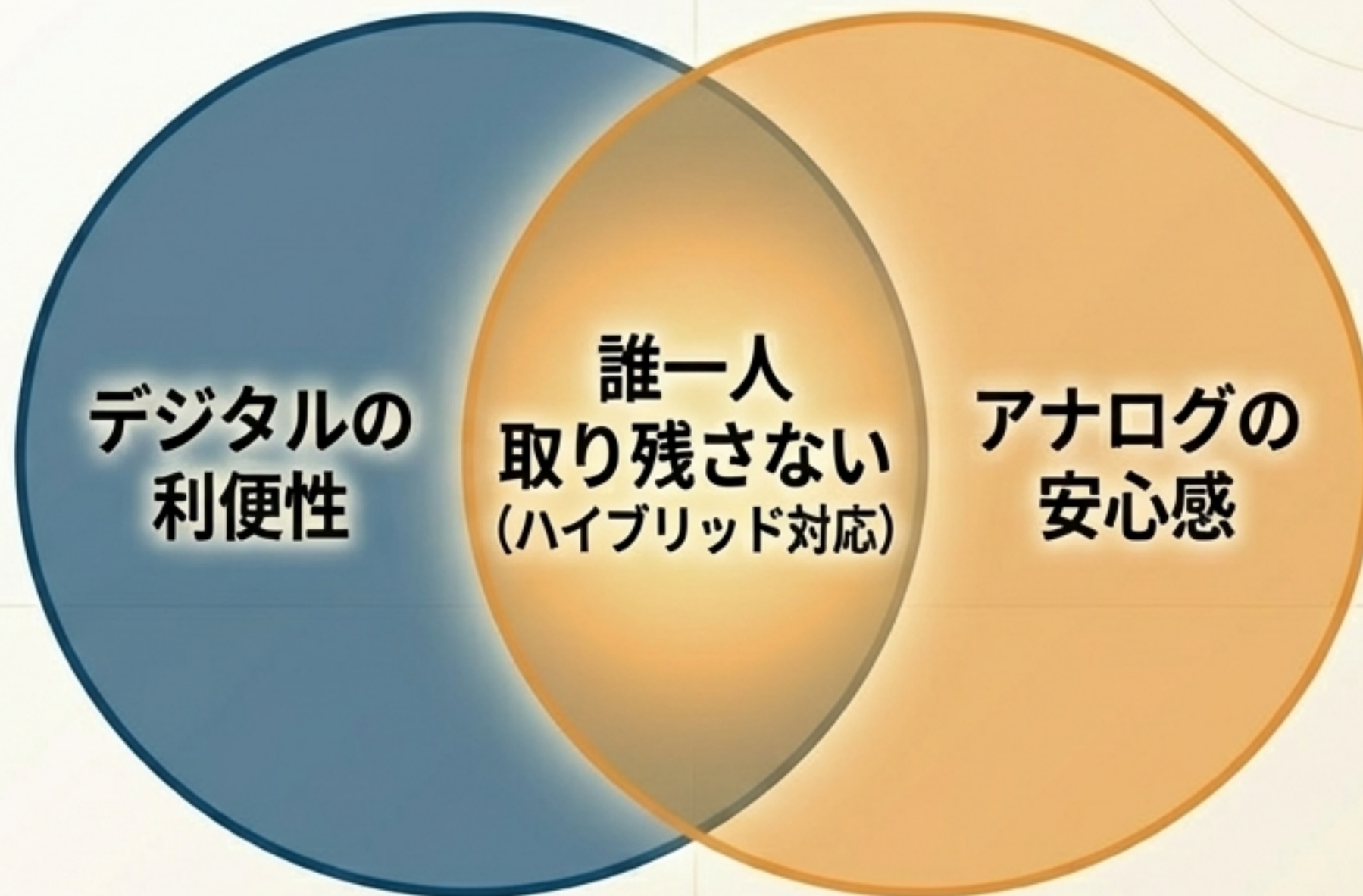
オンライン 完結化の徹底

押印や書面提出などのアナログ規制を撤廃し、スマートフォン一つで24時間手続きが完了する仕組みへ。



パーソナライズされた情報発信

市のLINE公式アカウントを活用。一斉配信ではなく、「子育て」「防災」など市民一人ひとりの関心に合わせた「セグメント配信」を実現。



誰一人取り残さない:

DXは紙をゼロにすることは全ではありません。デジタルと非デジタルの「ハイブリッド対応」を維持します。

アナログの安心感:

予防接種や健診案内など、高齢者層を中心に紙での通知が望まれる情報は、引き続き紙媒体で送付します。

デジタルの橋渡し:

高齢者向けの「スマートフォン教室」を定期開催。基本操作から行政サービスの利用まで、丁寧なサポート体制を構築します。

生成AIの積極活用

会議録の作成、複雑な書類審査の支援にセキュアな生成AIを導入。定型業務を自動化。

システムの標準化・共通化

国の基準に合わせ、2025年度末までに基幹システムを標準化。非効率な運用を排除。

学校DXの推進

教職員の校務DXを通じて事務負担を軽減。

業務の スリム化と 時間創出



対人支援や創造的な業務に職員の時間をシフト。児童生徒と向き合う時間を創出。

セキュリティを担保したテレワーク環境を整備し、職員の柔軟な働き方を支援。

しなやかな働き方

「DX推進リーダー（ハイブリッド人材）」を内部育成するとともに、外部人材を戦略的に活用。

DX人材の育成と確保

市民サービスのさらなる向上

「楽になるDX」の全庁展開

デジタル活用による業務削減の成功事例を可視化・共有し、新しい技術への抵抗感を払拭。

学習と自己研鑽の時間の創出

業務効率化で生まれた時間を、職員の学びに投資。



次世代ネットワーク基盤（α'モデル）

強固なセキュリティを維持しながら、クラウドサービスへ直接かつ安全にアクセスできる最新のネットワーク構成へ移行。

鉄壁のセキュリティ

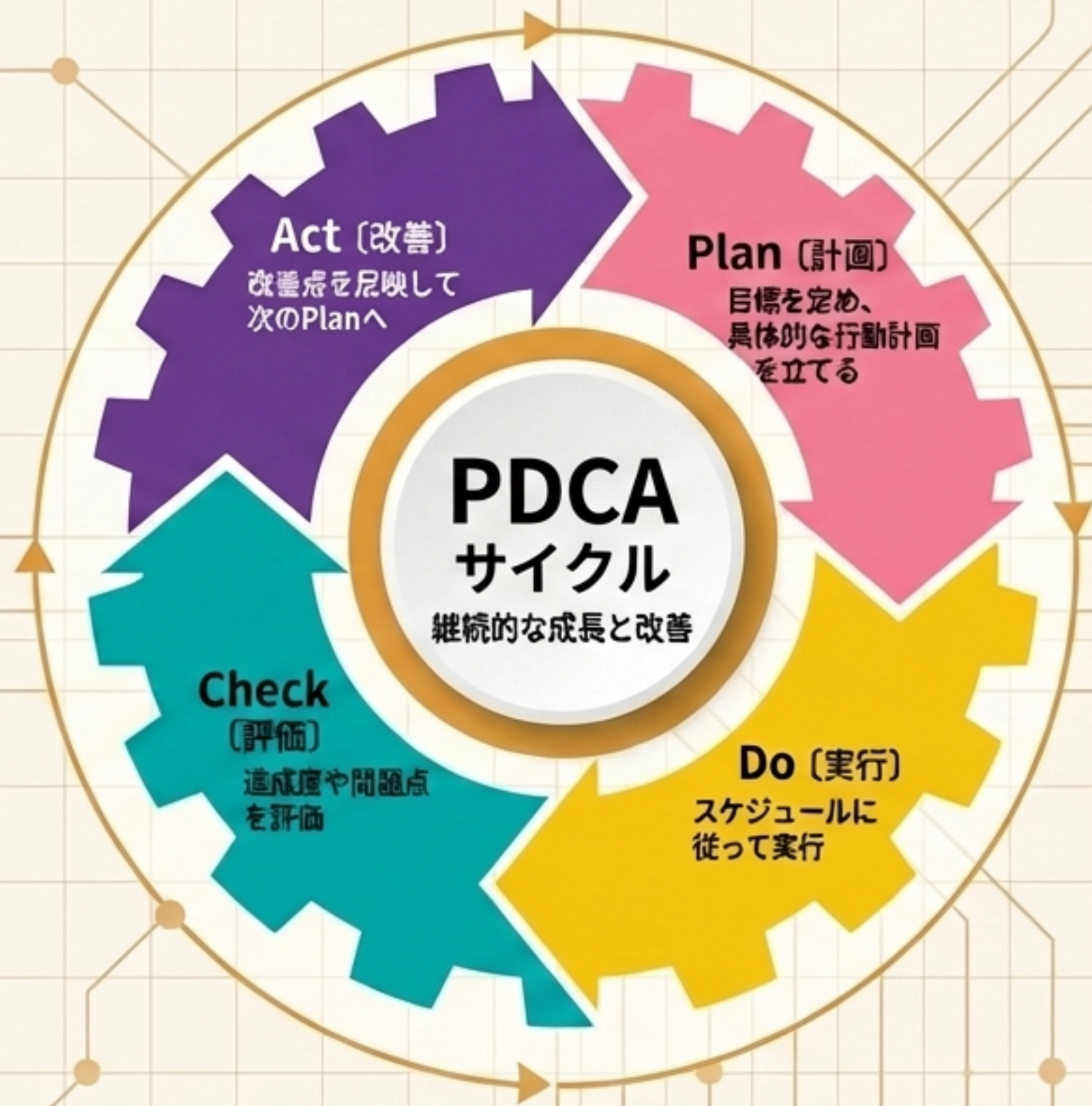
ゼロトラストの考え方を取り入れ、サイバー攻撃や情報漏洩から市民のデータを守る監視体制と職員教育を徹底。

災害に強いシステム（防災DX）

システムのクラウド化と防災DXソリューションの導入により、万が一の災害時でも「止まらない行政・途切れない支援」を実現。

2031年の目指す姿: デジタル変革による市民サービスの進化

領域	これまでのふじみ野市	2031年の目指す姿
手続き	複数窓口を回り、紙とハンコが必要	スマホから24時間オンライン完結。窓口はワンストップ化。
情報受信	自分に関係する情報をHPで探す	LINEで自分の関心に合った情報だけがタイムリーに届く。
市役所	手作業と紙ベースの審査・記録	生成AIや標準化システムによる迅速・正確な処理。
サポート	デジタルが苦手な人は取り残される不安	スマホ教室と紙の案内を併用する手厚いハイブリッド支援。



PDCAサイクルによる進行管理

計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Act)を絶えず回し、絵に描いた餅にしない徹底管理。

推進体制

「DX推進会議」と「CIO補佐官（外部専門家）」による厳格な進捗評価と軌道修正。

継続的進化

2026年から2031年まで、毎年度実施状況を点検し、テクノロジーの進化に合わせて柔軟に計画をアップデート。





**誰もがデジタルの恩恵を実感し、
安心して暮らせるまちへ。
ふじみ野市は、市民の皆さまと共に、
持続可能でスマートな未来を
築いていきます。**